



2024年3月期決算および 中期経営計画説明会

2024年5月

証券コード
6623

2024年3月期 総括

- － 4期ぶりの減収、4期ぶりの減益
- － 回転機事業の建物空調モータの受注低迷により
売上高が前期比3.2%減

2025年3月期 見通し

- － 増収減益予想
- － 車載空調モータ・半導体パッケージ基板の需要拡大を見込む
- － 一方で償却負担増加と新工場立ち上げの初期費用発生

中期経営計画2023 達成状況

- － 中計目標「売上高1,000億円・経常利益60億円・ROA6.0%・連結
配当性向25～40%」はすべて達成

中期経営計画2028 策定

- － 2028年度連結売上高1,500億円、連結営業利益100億円、ROIC6%
以上、連結配当性向30%以上を目指す
- － セグメントは、プリント基板事業を回転機事業から分離独立(2事業
から3事業に分割)し、各事業で拡大を目指す

1. 2024年3月期決算概要
2. 2025年3月期見通し
3. 中期経営計画2023達成状況
(2020年3月期～2024年3月期)
4. 中期経営計画2028策定
(2025年3月期～2029年3月期)

2024年3月期 決算概要

■ 回転機事業の建物空調モータの受注低迷の影響を受け、
売上高が前期比3.2%減となり、4期ぶりの減収、4期ぶりの減益

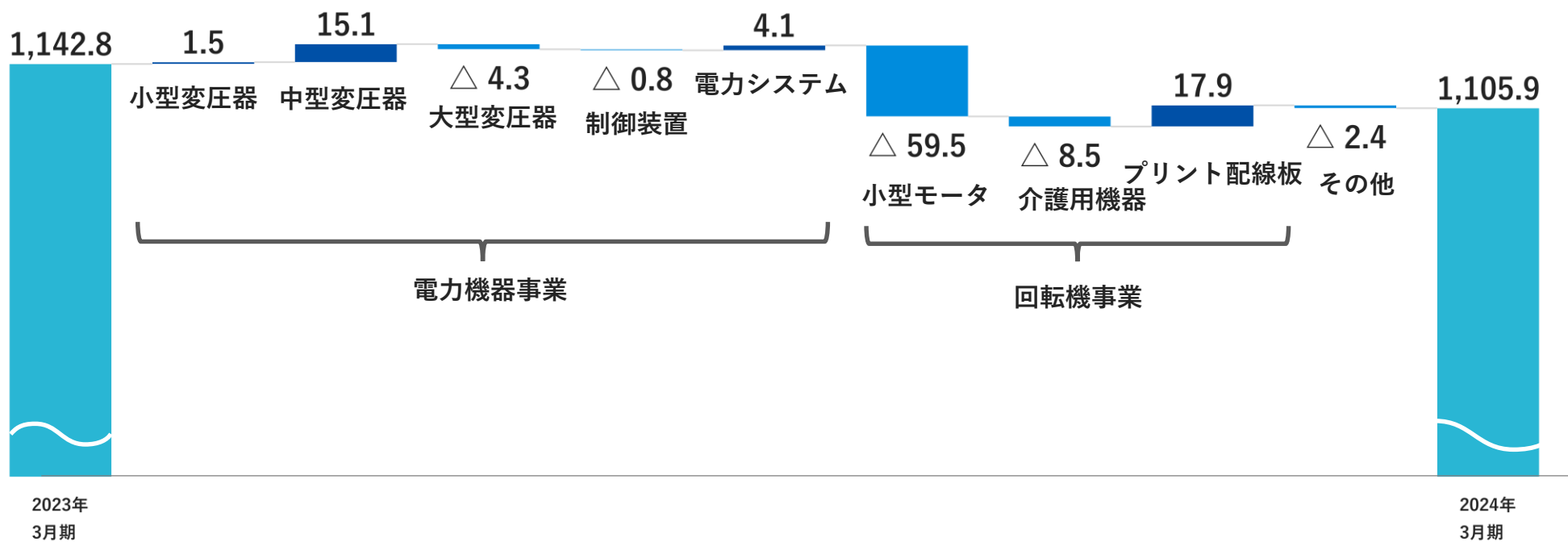
(単位：億円)	2023年3月期 実績	構成比	2024年3月期 実績	構成比	前期比	増減額	2024年3月期 期初計画 (2023年4月28日公表)
売上高	1,142.8	100.0%	1,105.9	100.0%	△3.2%	△36.9	1,250.0
売上総利益	161.6	14.1%	156.4	14.1%	△3.3%	△5.2	—
販売費及び 一般管理費	86.6	7.5%	85.8	7.7%	△1.0%	△0.8	—
営業利益	75.0	6.6%	70.5	6.4%	△5.9%	△4.5	70.0
経常利益	87.9	7.7%	83.1	7.5%	△5.5%	△4.8	70.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	59.5	5.2%	59.3	5.4%	△0.3%	△0.2	49.0

売上高増減要因（前期比）



- 中型変圧器は、一般産業向け変圧器、再生可能エネルギーの普及拡大に伴う送配電会社向け自動電圧調整器の受注増により増収
- 小型モータは、車載空調モータが前期比微増も、建物空調モータが中国不動産不況や巣ごもり需要の反動減等の影響を受け大幅減収
- プリント配線板は、半導体の調整局面による影響が懸念されるも増収

（単位：億円）

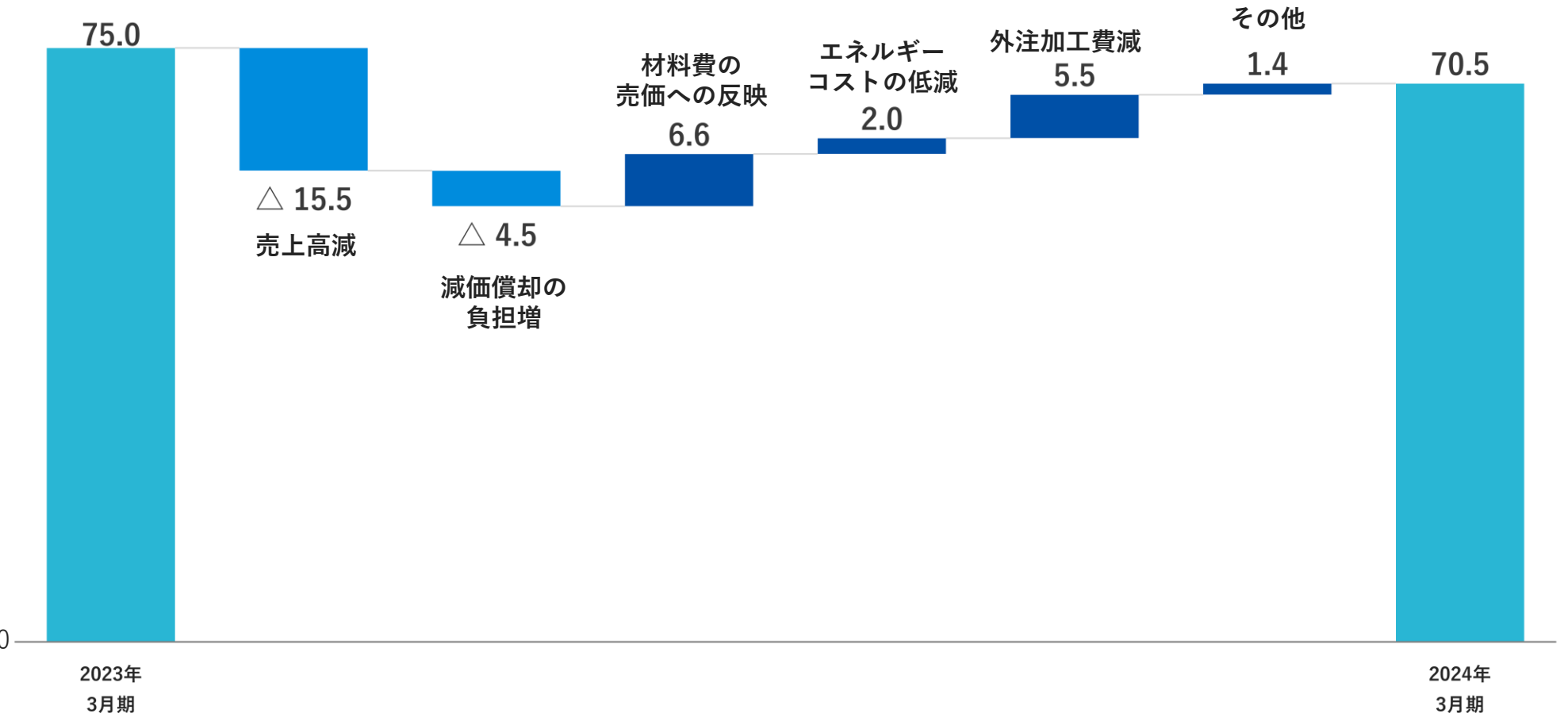


営業利益増減要因（前期比）



- 売上高減および設備の減価償却負担増により減益
- 材料費上昇に伴う売価反映等が進み利益改善

（単位：億円）



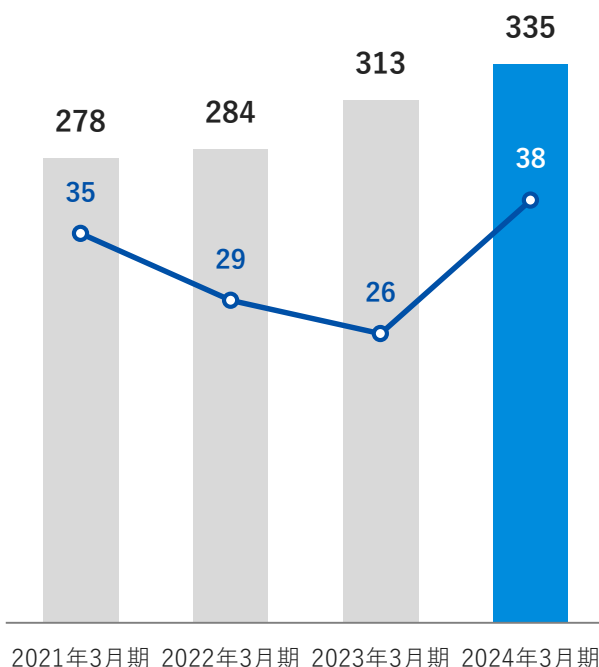
セグメント別の業績推移

- **電力機器**：売上高は堅調に推移し、一般産業向け変圧器や自動電圧調整器の増加などにより増収。
セグメント利益については、前期の半導体不足による生産影響がなくなり増益。
- **回転機**：売上高はプリント配線板と車載空調モータが前期を上回るも、建物空調モータが国内・海外ともに大幅に減収。この影響を受け、セグメント全体の利益も減少。

電力機器事業

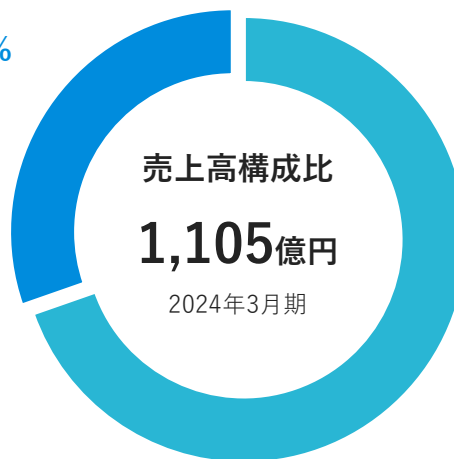
■ 売上高 ● セグメント利益

(単位：億円)



電力機器事業

30%



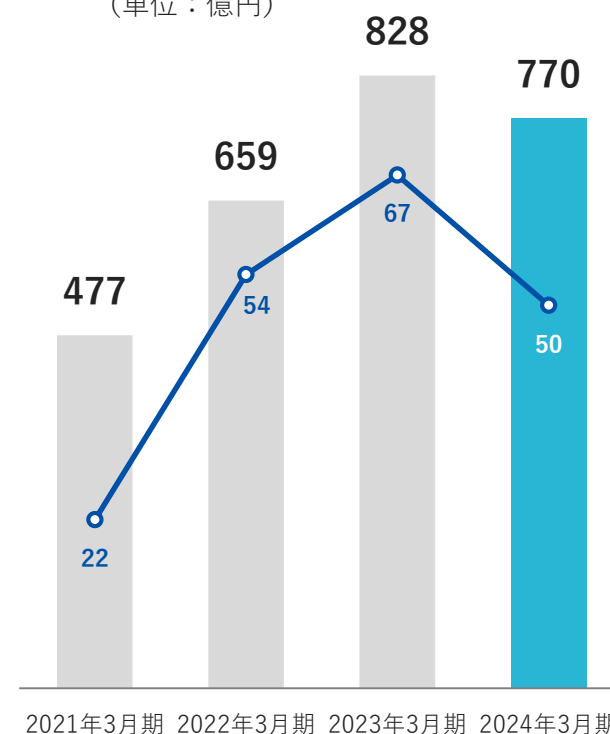
回転機事業

70%

回転機事業

■ 売上高 ● セグメント利益

(単位：億円)



バランスシートの状況



- 固定資産は前期末比89億円増加。生産能力増強のための設備投資による増
- ROAは6.5%（前期は7.5%）
- 自己資本比率は前期末と同率の54.4%

資産の部

(単位：億円)	2024年3月末	前期末増減
流動資産	866.6	+20.0
現金預金	263.0	+53.6
売上債権	361.6	△53.0
その他流動資産	241.9	+19.5
固定資産	476.7	+89.6
有形固定資産	364.3	+87.2
投資その他の資産	112.4	+2.3
資産合計	1,343.4	+109.6

負債・純資産の部

(単位：億円)	2024年3月末	前期末増減
負債合計	598.2	+49.5
仕入債務	237.9	△29.4
短期借入金	49.8	△1.8
長期借入金	117.1	+29.4
純資産合計	745.2	+60.1
負債純資産合計	1,343.4	+109.6

キャッシュ・フローの状況



- 積極的な設備投資を実施したが、営業C F の改善により現預金残高を維持。
- 投資CFは、回転機事業を中心に積極的な設備投資を実施。

(単位：億円)	2023年3月期	2024年3月期	増減	主な要因
現金及び現金同等物の期首残高	164.5	202.5	+37.9	—
営業活動によるキャッシュフロー	52.1	138.4	+86.2	売上債権の回収などによるもの
投資活動によるキャッシュフロー	△66.0	△94.0	△27.9	回転機事業の設備投資によるもの
フリーキャッシュフロー	△13.9	44.4	+58.3	—
財務活動によるキャッシュフロー	50.4	7.2	△43.1	長期借入金によるもの
現金及び現金同等物の期末残高	202.5	256.1	+53.6	

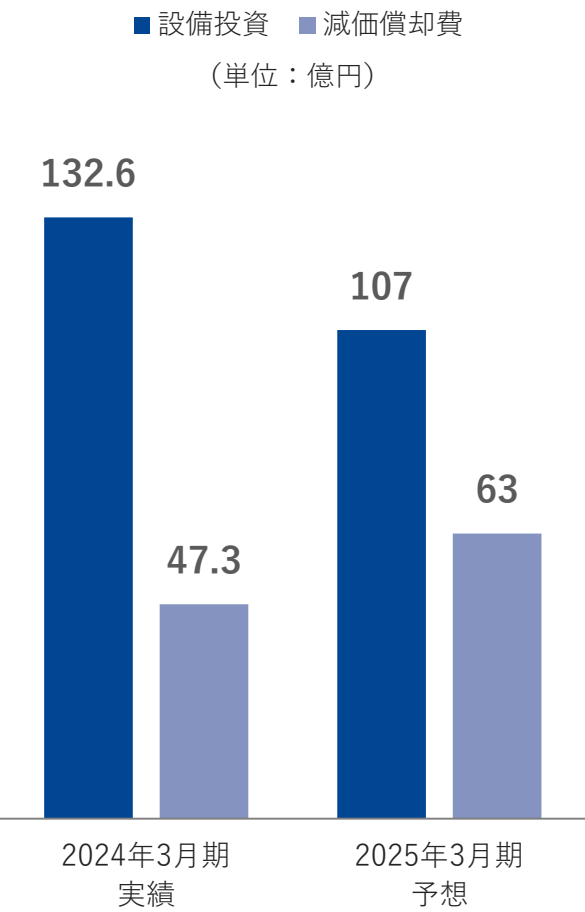
2025年3月期の見通し

- 売上高 前期比8.5%増の1,200億円。建物空調モータが下期からの回復を見込む
- 利益 各利益減益。営業利益は前期並みの70億円を見込む。経常利益70億円は大規模設備投資に伴う減価償却負担増とパッケージ基板用コア新工場立ち上げの費用負担による。
なお、為替差損益は含めていない。

(単位：億円)	2024年3月期 実績	利益率	2025年3月期 予想	利益率	増減額 (前期比)	増減率 (前期比)
売上高	1,105.9	—	1,200.0	—	+94.1	+8.5%
営業利益	70.5	6.4%	70.0	5.8%	△0.5	△0.1%
経常利益	83.1	7.5%	70.0	5.8%	△13.1	△15.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	59.3	5.4%	48.0	4.0%	△11.3	△19.1%

- 設備投資 成長分野への積極的な設備投資を継続
- 減価償却費 設備投資継続による増加基調が続く

設備投資・減価償却費



主な設備投資の実績（2024年3月期）

パッケージ基板用コアの工場新設等	79.1億円
車載空調モータの生産能力増強(国内・海外)	33.5億円
変圧器工場のリニューアル	5.5億円

主な設備投資の計画（2025年3月期）

	総投資額	稼働予定
パッケージ基板用コアの第4期生産能力増強	約45億円	2025年7月より順次
車載空調モータの生産能力増強	約20億円	2025年3月期順次

中期経営計画2023達成状況

～確かな技術で未来をひらく～ 変革と挑戦
(2020年3月期～2024年3月期)

中期経営計画2023の目標達成状況

全項目で目標達成

- 売上高** — 目標に対し、電力機器事業が若干下回ったものの、回転機事業が大きく上回った
- 経常利益** — 建物・車載空調モータやパッケージ基板用コアの販売増が貢献
- ROA** — 総資産増加も経常利益が目標を上回った
- 連結配当性向** — 目安25~40%に対し、2019年度から2023年度平均で26.4%

年度 /\	連 結					
	2019 実績	2020 実績	2021 実績	2022 実績	2023	
					目標	実績
売上高	750	756	943	1,142	1,000	1,105
営業利益	28	41	66	75		70
経常利益	33	47	79	87	60	83
ROA ※	3.7%	5.1%	7.7%	7.5%	6.0%	6.5%

※ ROA（総資産利益率）＝ 経常利益 ÷ 総資産

（参考）ROE 2019実績5.2% 2020実績6.1% 2021実績9.4% 2022実績9.2% 2023実績8.5%

中期経営計画2028

(2025年3月期～2029年3月期)



— 電力会社市場

投資抑制や設備延命による需要減、修理への需要シフトが見込まれる。
一方、脱炭素化やD X進展を背景に、送配電設備の高度化・デジタル化・再生可能エネルギー拡大、レジリエンス向上対応製品の需要が予想される。

— 一般産業市場

設備投資回復基調の中、高度経済成長期に設置機器の取替需要や、再生可能エネルギー関連設備の需要が見込まれる。技術・価格競争は激化が予想される。

— 海外市場

電力需要拡大と再生可能エネルギー導入促進が見込まれる。
競合企業の変化、国ごとの製品仕様や納期など顧客ニーズの多様化により、柔軟かつ迅速な対応力と価格競争力が求められる厳しい状況が予想される。



回 転 機 業 事 業

ー 建物空調市場

巣ごもり需要反動から需要伸び悩み、エネルギー価格や物価の上昇、中国の不動産市場悪化が加わり、在庫調整の状況が続いている。

中長期的には、世界的な温暖化や省エネ規制に伴う高効率化製品の需要拡大が予想される。

ー 車載空調市場

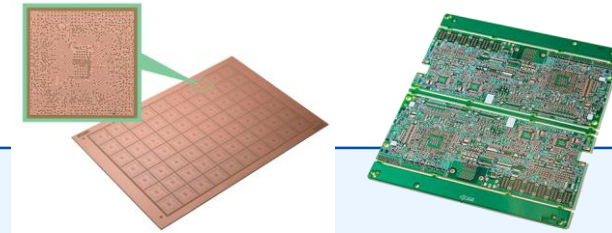
中国や欧米のEV車市場拡大により需要増加も、足元では減速している。

中長期的には、脱炭素化の流れを受け、EV車市場の拡大は進行すると思われる、生産国・地域や自動車メーカーのシェア変動が予想される。

ー 産業機器市場

オートメーション化によるアクチュエータ分野の需要増も、産業機器メーカーは内製化を促進している。

インバータ分野の需要増も、水中ポンプやシャッターなどの設備機器分野では国内需要が横ばいの状況である。



プリント 基板事業

ー 半導体パッケージ基板市場

IoT普及や5G通信などにより、市場規模は急速に拡大した。
足元で需給調整局面にあるものの、今後も高速通信ニーズや生成AIの利用拡大などにより、半導体需要は中長期的に拡大が予想される。
半導体パッケージ基板業界では、設備増強投資や新たな高度技術の開発を進めている。

ー 一般基板市場

FA機器需要の拡大や自動車の電動化・電子化が見込まれる。
台湾・中国・韓国の一般基板メーカーとの競合により、国内市場は車載基板や特殊基板、多種少量品に限定されていくことが予想される。

愛知電機グループがステークホルダーに多様な価値を提供する

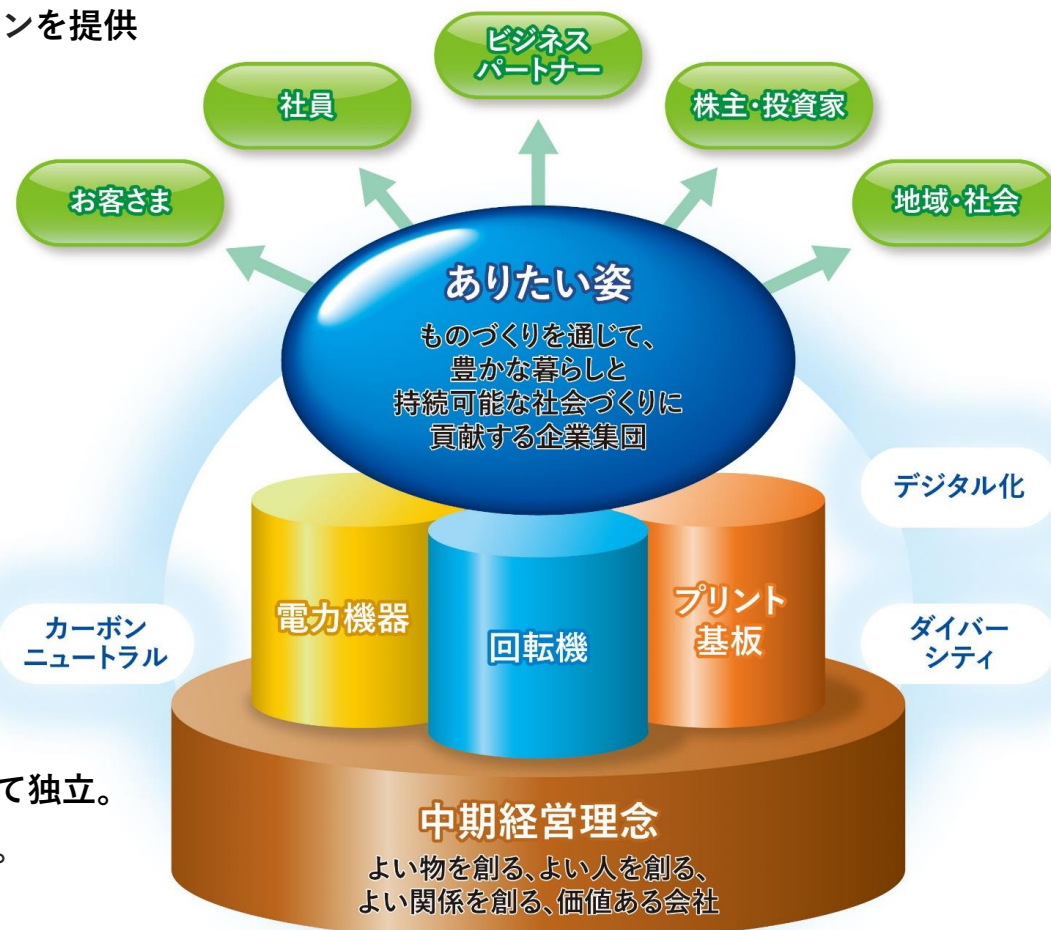
- ・お客さま
満足・安心・信頼を得る製品・サービス・ソリューションを提供
- ・社員
誇り・働きがい・達成感、豊かな人生
- ・ビジネスパートナー
連携・共存共栄、取引拡大と相互発展
- ・株主・投資家
利益還元、企業価値の向上、適切な情報開示
- ・地域・社会
地域との共生、社会貢献、環境保全

経営環境

外部環境の変化を捉え、持続的成長を目指す。

事業セグメント

- ・回転機事業のプリント配線板をプリント基板事業として独立。
- ・電力機器事業、回転機事業、プリント基板事業で推進。



新製品・新事業の発掘・育成、ものづくり力の強化、経営基盤の強化により、信頼と品質を高め、持続的な成長と企業価値の向上を目指す。

新製品・新事業の発掘・育成

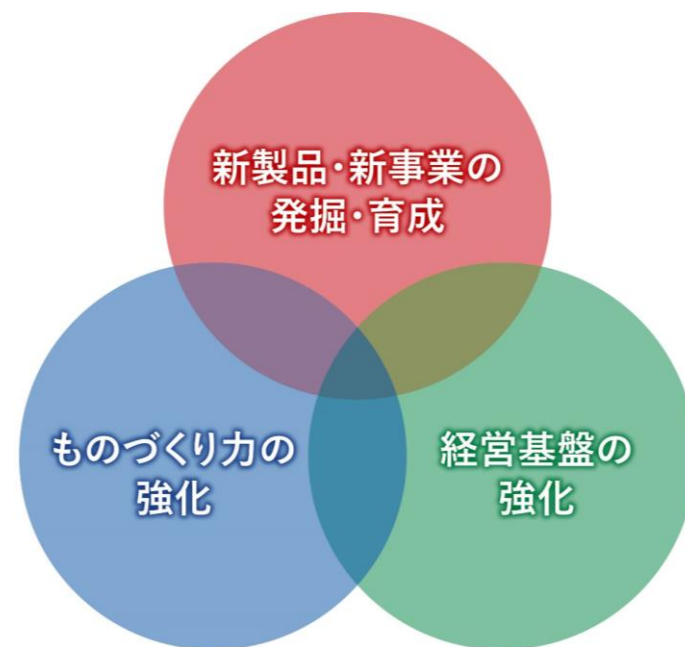
新製品を積極的に提案して、事業領域を拡大するとともに、お客さま・ビジネスパートナーとの信頼関係を強化し、新たな市場への事業展開を進め、新製品・新事業の発掘・育成を図る。

ものづくり力の強化

市場・お客さまニーズに対応したグローバルな生産拠点・体制の整備と、設計・製造・検査業務のデジタル化や自動化を進め、メーカーとしてものづくり力の強化を図る。

経営基盤の強化

人材の確保・育成および能力を最大限発揮できる環境を整備するとともに、企業としてのガバナンスの最適化とコンプライアンス・リスクマネジメントの強化を図る。



2028年度 財務目標

連結売上高 1,500億円

ROIC※ 6%以上

連結営業利益 100億円

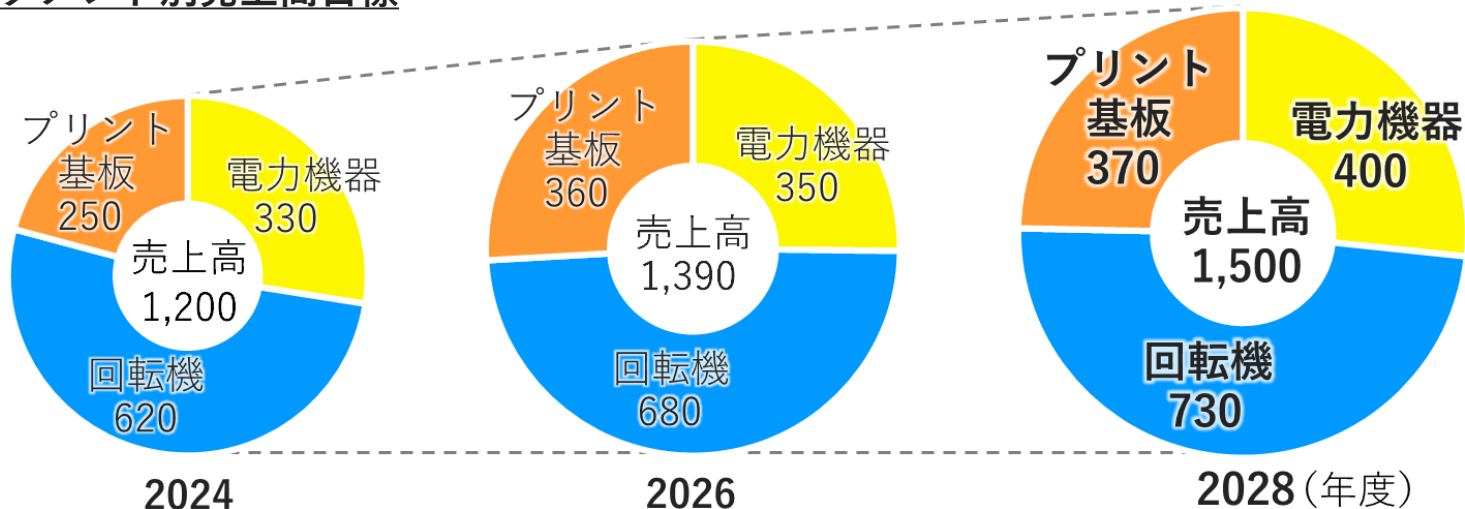
配当性向 30%以上

※ ROIC（投下資本利益率）＝ 税引後営業利益 ÷ （株主資本＋有利子負債）

目安 ROE 8%程度

セグメント別売上高目標

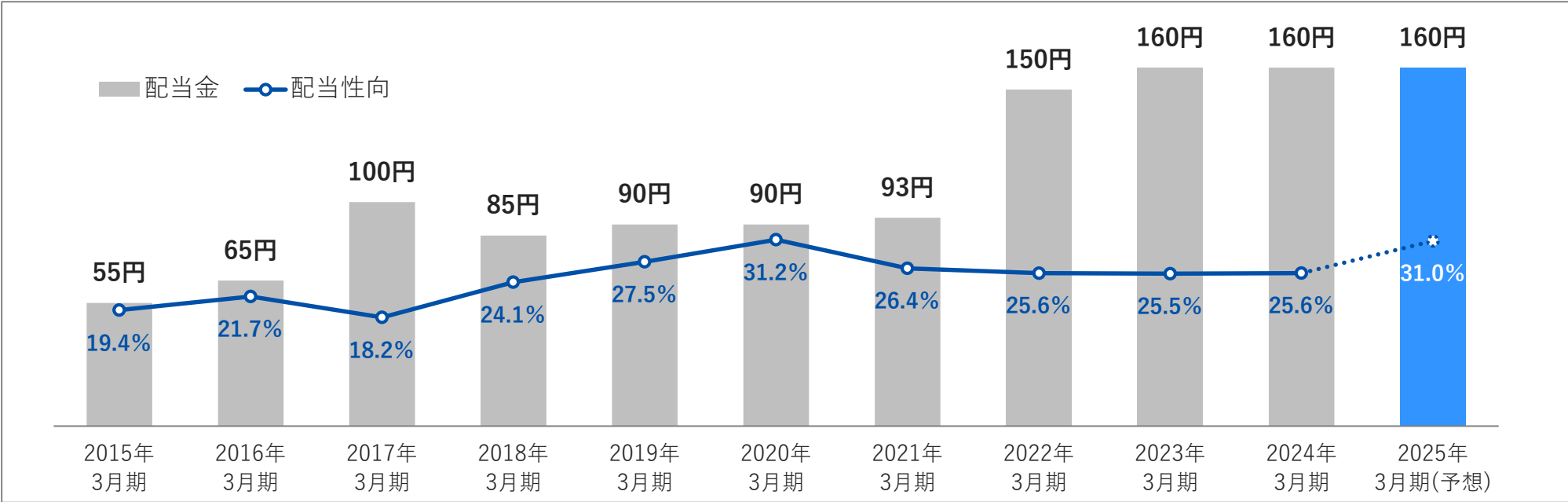
（単位：億円）



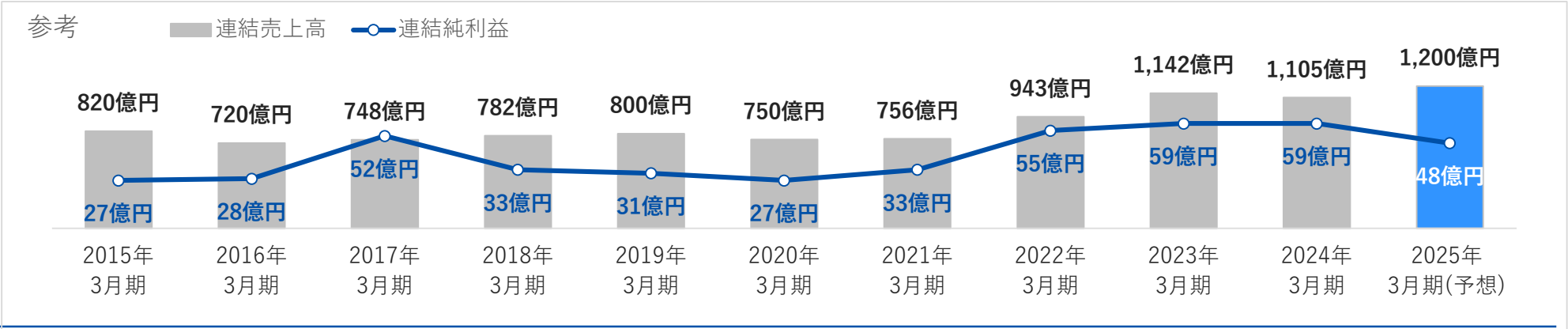
配当・株主還元策



株主に対する安定的な利益還元は経営の最重要政策と位置付け、目標を連結配当性向30%以上とする



(注) 2016年10月に普通株式5株を1株に併合しております。
これにより2016年9月末までの1株当たり配当金額については、株式併合後のものと整合をとるため、実績値の5倍で表記しております。



電力機器事業

新製品・新事業の発掘・育成

次世代電力システムを支えるデジタル制御機器や、再生可能エネルギー関連設備等の新製品・システムを開発する。

<新製品・新事業の候補>	
変圧器	全装可搬型負荷時タップ切替変圧器、植物油入変圧器、第三次トップランナー適用変圧器
制御機器	集約型監視制御装置、保護制御装置、新型遮断器
電力・産業システム	小水力発電システム、変圧器監視装置、蓄電システム、自動電圧平衡化装置

ものづくり力の強化

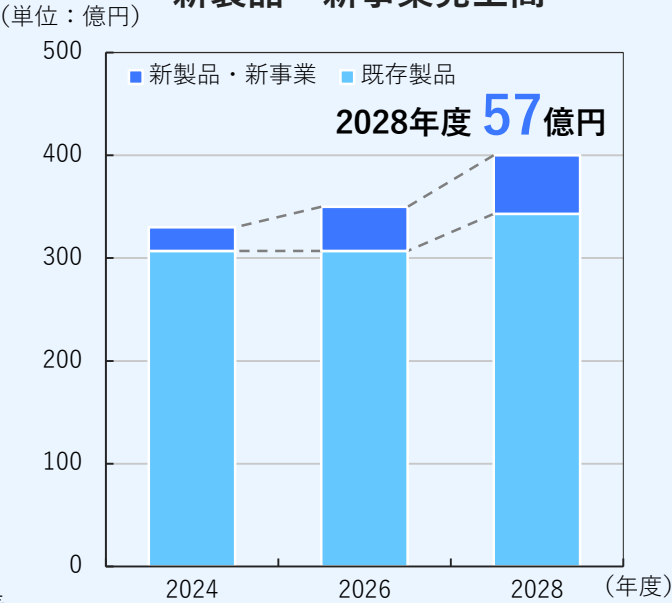
QCD※1とPSME※2の追求。

※1 QCD Quality（品質）、Cost（コスト）、Delivery（納期）の3要素

※2 PSME Productivity（生産性）、Safety（安全）、Morale（士気）、Environment（環境）の4要素

変圧器	生産体制の最適化とスマート工場の実現
制御機器	設計工程のIT変革、工場の生産データ利活用による生産性の向上

新製品・新事業売上高



回転機事業

新製品・新事業の発掘・育成

新製品の開発、新拠点での販路拡大、新事業の確立などの事業拡大を図っていく。

<新製品・新事業の候補>

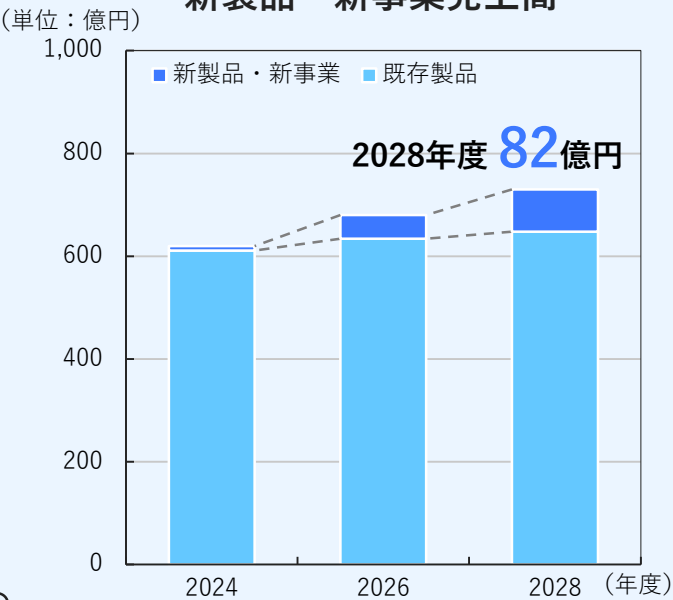
建物空調モータ	ヒートポンプ用モータ
車載空調モータ	高出力・高効率電動コンプレッサ用モータ、 電動ポンプ用モータ
モータ応用機器	高推力アクチュエータ、低電圧高トルクモータ・駆動 インバータ、冷凍・冷蔵ショーケース搭載インバータ

ものづくり力の強化

グローバル市場で勝ち抜くため、ものづくり力の強化を図っていく。

建物空調モータ	国内外での生産・研究開発拠点の増強
車載空調モータ	市場・お客さまニーズに対応した生産体制・品質管理体制の整備
モータ応用機器	グループ大での生産体制の最適化

新製品・新事業売上高



プリント基板事業

新製品・新事業の発掘・育成

パッケージ基板用コアでは、技術の先取りに努め、高機能コアの技術開発と厚コア・多層化技術の強化を図る。一般基板では、高付加価値製品の開発を進める。

<新製品・新事業の候補>

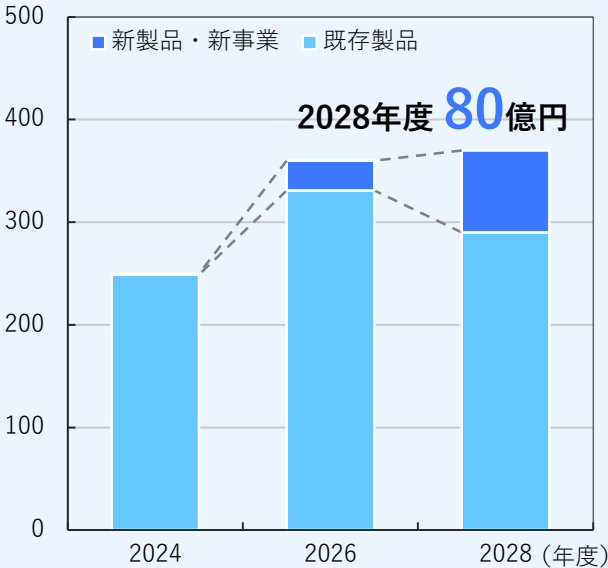
パッケージ基板用コア	高機能コア、多層コア
一般基板	高周波基板、高多層ビルドアップ基板

ものづくり力の強化

リードタイムの短縮と柔軟な供給体制の確立により、お客さま満足向上と事業の収益体制維持を図る。

パッケージ基板用コア	新工場の安定稼働と投資の継続
一般基板	ビルドアップ、高多層製品の歩留まり改善と安定生産 イニシャルコスト低減やリードタイム短縮

(単位：億円) 新製品・新事業売上高



経営基盤強化戦略

長期的な企業価値向上に向けてガバナンスの最適化と内部統制の強化を進めるとともに人材、事業、財務の3つの視点から経営基盤の強化を図る。

人的基盤 将来を支える人的資源の強化

- 事業拡大に必要な人材の確保・育成
- グループ大での人材有効活用
- ダイバーシティの推進と社員エンゲージメントの向上

事業基盤 事業推進の根幹を支える業務基盤の強化

- 品質抜本改革の継続
- 企業価値向上策の推進
- ITシステムの刷新による省人・省力化
- 事業活動の脱炭素化推進と循環型ものづくりへの取り組み加速
- リスク管理とコンプライアンスの推進
- DX推進による生産性向上
- サプライチェーンの強靱化

財務基盤 健全な財務基盤と成長投資の両立

- ROIC導入による効率性重視の経営の推進
- グループ経営の強化
- 連結資金管理の強化と資金調達の多様化
- 積極的なIR活動の推進
- 成長投資の積極的な実行

2028年度 財務目標

連結売上高 1,500億円

ROIC※ 6%以上

連結営業利益 100億円

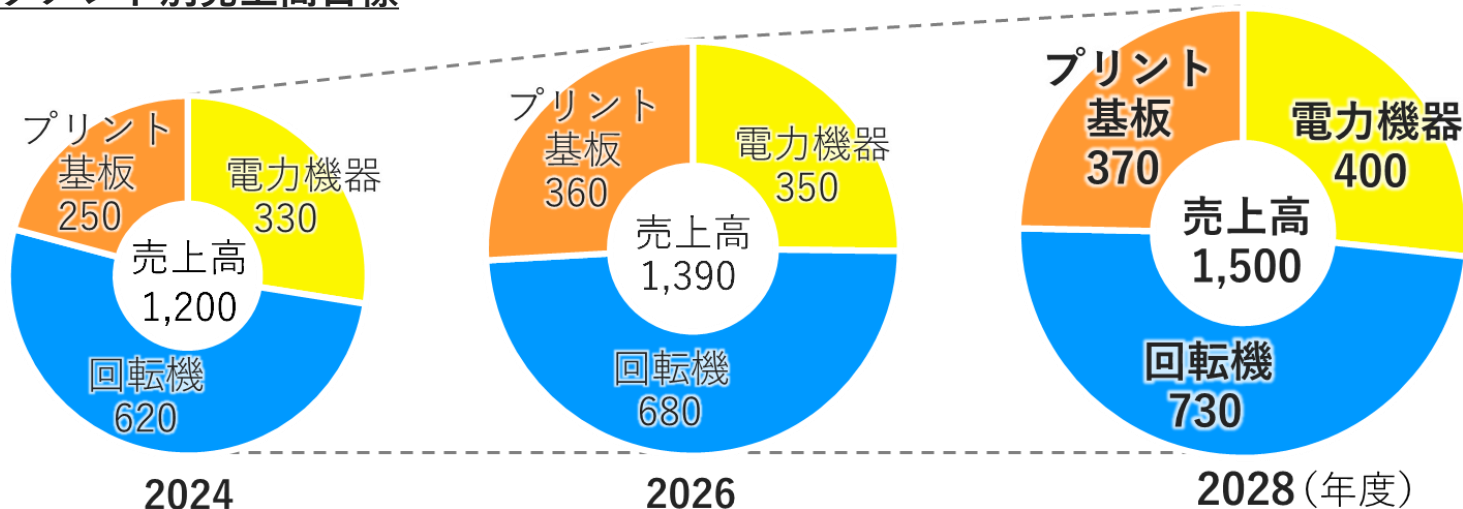
配当性向 30%以上

※ ROIC（投下資本利益率）＝ 税引後営業利益 ÷ （株主資本＋有利子負債）

目安 ROE 8%程度

セグメント別売上高目標

（単位：億円）



愛知電機グループは、1942年の創業以来、
技術へのこだわりと、ものづくりへの情熱を伝承し、
電力インフラや快適な生活をサポートする製品を
提供してきました。

これからも、**ものづくりを通じて、
豊かな暮らしと持続可能な社会づくりに貢献する
企業集団**を目指してまいります。



お 問 合 せ 先
管 理 本 部
経 営 企 画 部
広 報 ・ IR グ ル ー プ

TEL 0568-35-1105

<https://www.aichidenki.jp/contact.html>

< 注意事項 >

本資料の将来計画の数値につきましては、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。